

平成23年7月15日

平成23年度病虫害発生予報第4号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(穂いもち)		並
	紋枯病	並	並
	穂吸汁性カメムシ類	並	並
普通期水稲	いもち病(葉いもち)	並	並
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	並	並
	セジロウンカ	少	やや少
	トビイロウンカ(防除情報第6号)	やや少	やや少
	コブノメイガ(防除情報第6号)	やや少	並
大豆	ハスモンヨトウ		やや多
いちご (育苗床)	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病( <i>G. cingulata</i> ) (注意報第1号)	多	多
	輪斑病	やや多	やや多
	ハダニ類	並	並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	並	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病(注意報第2号)	多	多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

早期水稲

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(41筆)の結果、葉いもちの発病株率は0.2%(0.9%)、発生圃場率は19.5%(14.9%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(過去10カ年平均発病株率0.2%)。

(3) 防除上注意すべき事項

葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃い期の2回防除を行う。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発病株率は0.2%(0.3%)、発生圃場率は9.8%(12.1%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は17.0%(18.9%)であった。

## 3. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査(31地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は9.9頭(9.4頭)であった(表)。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくいとり当たり虫数						発生地点率	
	H19	H20	H21	H22	平年	H23	平年	H23
ホリハリカメムシ	0.4	0.4	0.3	0.3	0.5	0.4	59.6	51.6
クモヘリカメムシ	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	10.1	6.5
シラホシカメムシ	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	33.6	22.6
アカスジカスミカメ	9.3	10.8	4.6	7.9	8.5	9.6	72.5	80.6
ミナミアオカメムシ	0.05	0.03	0.03	0.01	0.02	0	3.6	0
計	9.9	11.3	5.6	9.5	9.4	9.9		

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降、水田周辺の雑草地を除草すると本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。

イ 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。

ウ ミナミアオカメムシは斑点米を発生させる能力が高いので圃場での発生に注意する。また一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

## 普通期水稻

### 1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は2.2%(2.7%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 7月以降、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は認められなかった(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。
- イ 葉いもちの急性型病斑が見られた場合は早急に防除を行う。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は1.1%(0.8%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

## 3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は1.1%(1.5%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 7月上旬の巡回調査(89筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.03頭(0.06頭)、発生圃場率は21.3%(16.4%)であった。
- エ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの寄生を認めなかった(寄生株率1.3%、株当たり虫数0.01頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。
- イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意する。

## 4. セジロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア これまでの飛来量は平年より少ない。
- イ 7月上旬の巡回調査(89筆)の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.2頭(1.0頭)、発生圃場率は52.8%(65.8%)であった。
- ウ 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.1頭(2.8頭)、寄生株率は10.0%(67.9%)であった。
- エ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

## 5. トビイロウンカ

平成23年7月15日付、**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

## 6. コブノメイガ

平成23年7月15日付、**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

## 大豆

### 1. ハスモンヨトウ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

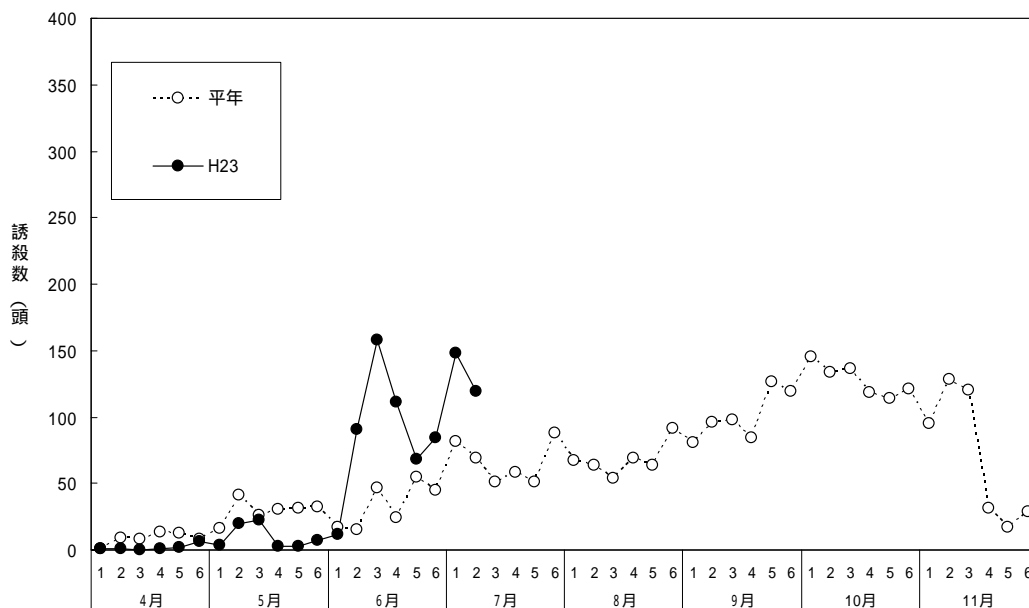
ア フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は6月中旬以降、平年よりやや多く推移している(図)。

イ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。



(月・半旬)

図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)  
平年: H13 ~ H22の平均値(最大・小値除)

## いちご(育苗床)

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.2%(3.6%)、発生圃場率は15.2%(39.4%)であった。

### 2. 炭疽病(*G. cingulata*)

平成23年7月15日付病害虫発生予察注意報第1号による。

### 3. 輪斑病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発病株率は7.3%（2.6%）、発生圃場率は42.4%（24.4%）であった。

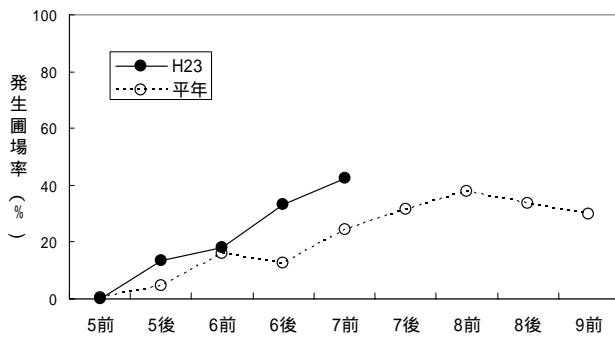


図 輪斑病 発生圃場率の推移

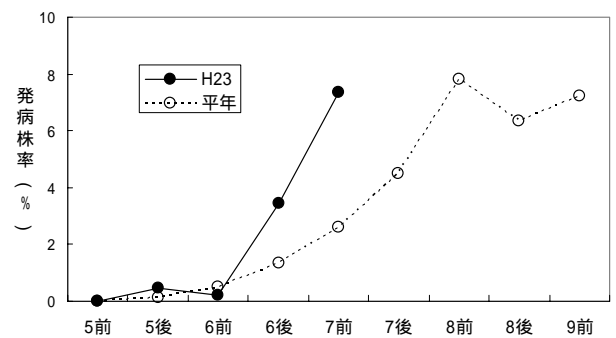


図 輪斑病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア リ病葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去する。また、除去したり病葉は圃場周辺に放置しない。

イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。

ウ 過湿条件は発病を助長するので、密植を避け、通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（33筆）の結果、寄生株率は0.4%（1.2%）、発生圃場率は9.1%（11.4%）であった。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（9筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は19.8頭（過去4カ年平均13.3頭）、発生圃場率は77.8%であった（過去4カ年平均80.6%）。

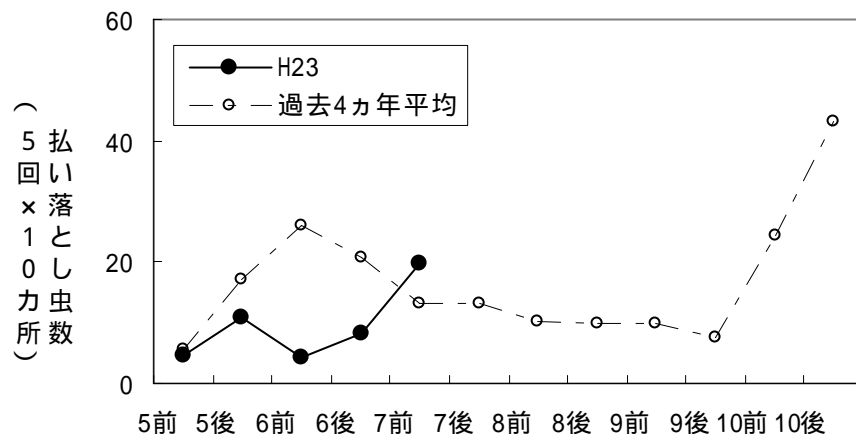


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移（巡回調査）  
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

## かんきつ

### 1. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.7%(0.6%)、発生圃場率は23.1%(25.0%)であった。

### 2. 黒点病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は4.1%(1.0%)、発生圃場率は38.5%(13.5%)であった。

イ 病害虫防除員の報告によると、発生量は平年よりやや多い。

#### (3) 防除上注意すべき事項

枯れ枝が重要な伝染源となるので、剪除する。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は6.6%(10.9%)、発生圃場率は35.9%(50.0%)であった。

### 4. チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率は0.1%(0.8%)、発生圃場率は5.1%(12.5%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。

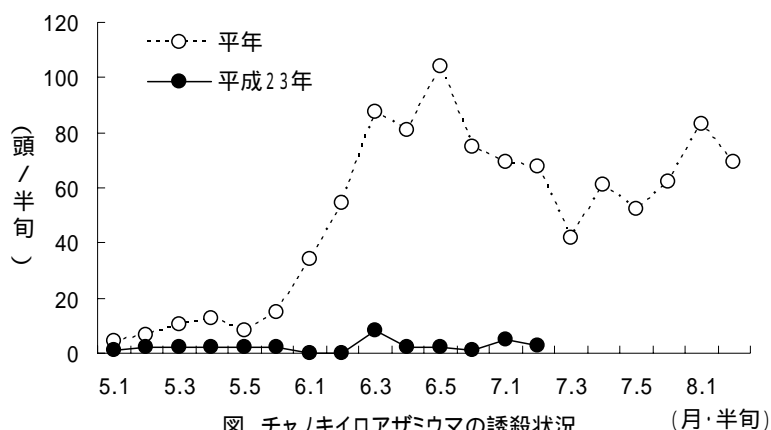


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況  
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

	長崎	大瀬戸	佐世保	口之津	平戸
第3世代	7/4	7/13	7/5	7/4	7/15
" (前年)	(6/29)	(7/9)	(7/1)	(6/28)	(7/14)
第4世代	7/22	8/1	7/23	7/22	8/3
" (前年)	(7/18)	(7/29)	(7/20)	(7/17)	(8/1)
標高(m)	27	43	4	10	58

注1：気温データは各地域のアメダスデータにより平成23年7月13日時点で算出し、7月14日以降は平年値を使用した。

注2：同一地区内でも、標高や土地条件で予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.4%(1.2%)、発生圃場率は30.0%(37.5%)であった。

### 2. ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年の平均寄生枝葉率0.0%、発生圃場率2.0%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

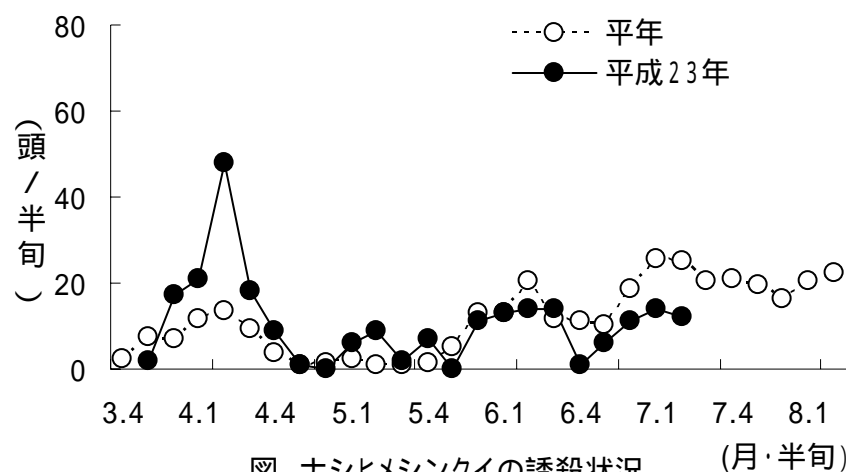


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況  
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

## なし

### 1. ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年並で推移している（びわの項参照）。

## ぶどう

### 1. ペと病

平成23年7月15日付、病害虫発生予察注意報第2号による。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年よりやや少なく推移している（図）。

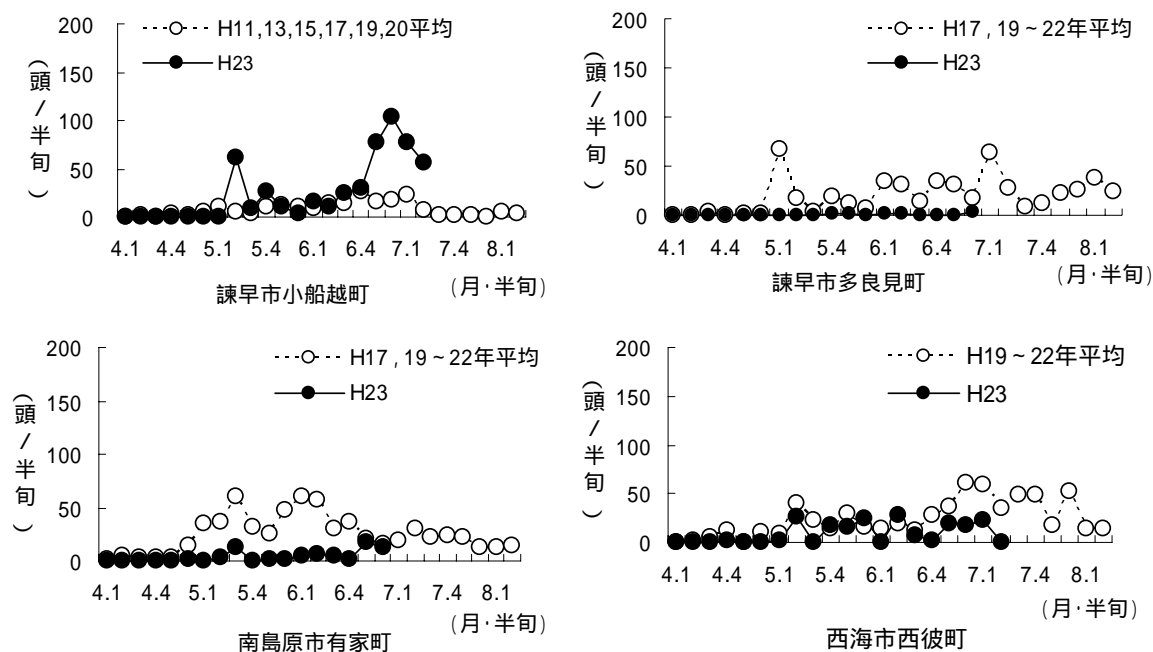


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況（黄色コガネコール）

## 茶

### 1. 炭疽病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり発病葉数は8.1枚（5.2枚）、発生圃場率は75.0%（55.6%）であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が発生しやすいので、同一薬剤を連用しない。

### 2. チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は



11.3頭(11.5頭)、発生圃場率は85.0%(77.8%)であった。

### 3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.2枚)、発生圃場率は15.0%(13.6%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

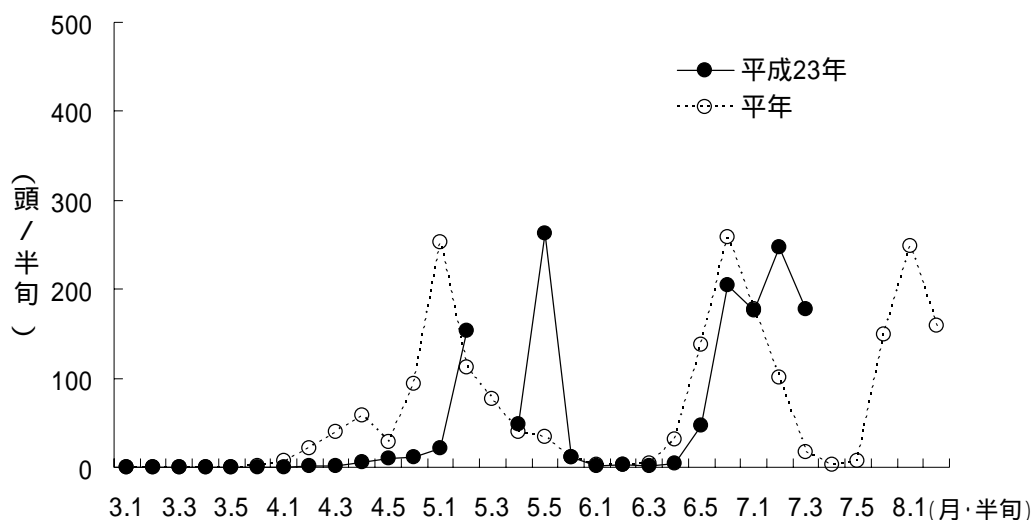


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)  
注:5月3半旬は欠測

### 4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は30.0%(4.2%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

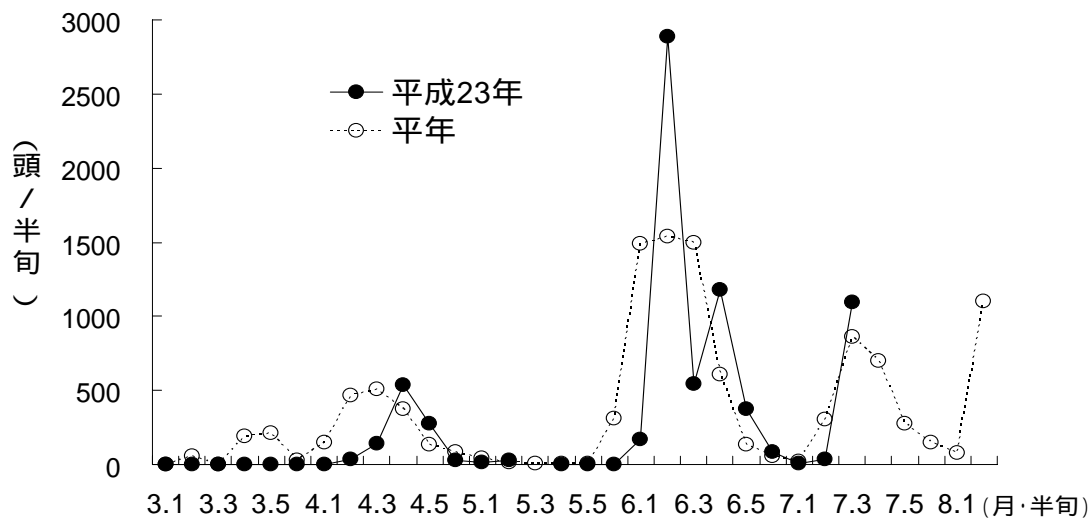


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)  
注:5月3半旬は欠測

## 5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.3%(0.2%)、発生圃場率は20.0%(8.8%)であった。

## 6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.5頭(1.7頭)、発生圃場率は50.0%(46.9%)であった。

## 7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は3.6%(4.4%)、発生圃場率は30.0%(32.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日(第2世代)

地点名	標高	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
東彼杵町太の原	360m	7/27	7/27	7/25	7/25
五島市上大津	77m	7/19	7/16	7/13	7/16

注1：方法は「有効積算温度則による防除適期予測法(農林技術開発センター茶業研究室)」により、東彼杵町：7月1日、五島市：7月14日時点で予測した。

注2：使用する気温データは、農林技術開発センター茶業研究室(東彼杵町)の測定値及びアメダスデータ(五島市)を使用し、予測日以降の気温データは平成22年測定値を使用した。

なお、第1世代のふ化盛期を、東彼杵町太の原：5月28日、五島市上大津：5月19日とした。

注3：同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

【参考】

気象

(平成23年7月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

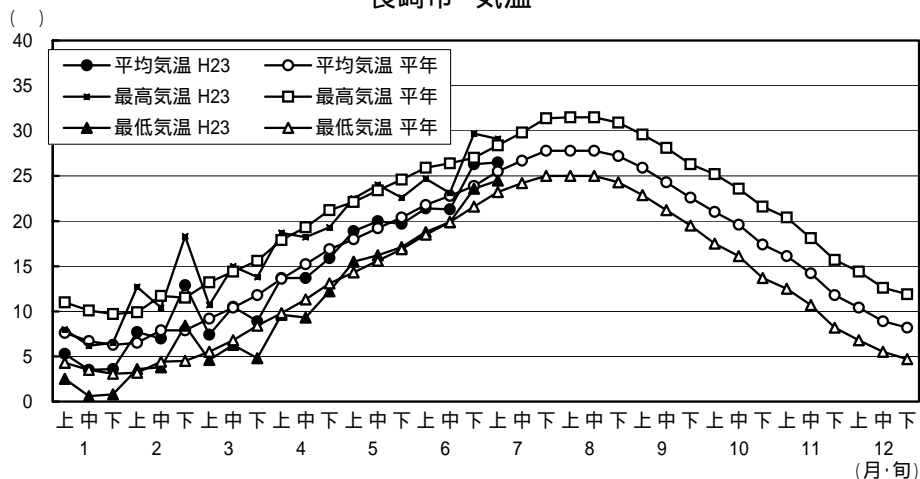
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

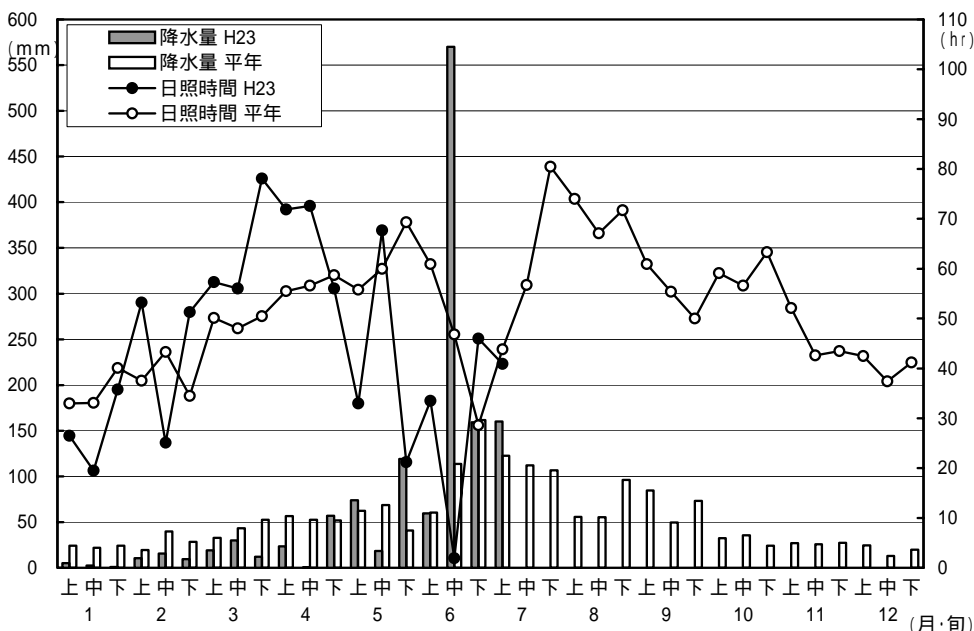
予報対象地域：九州北部地域

平成23年の気象経過(長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027